



警報局

加古川大堰放流警報設備改修工事完了

2018年3月、近畿地方整備局姫路河川国道事務所様から加古川大堰放流警報設備改修工事を受注し、2020年1月に完了しました。放流警報設備改修工事は、加古川大堰の下流17か所の警報局等を更新する工事です。

放流警報設備は、大堰および大堰下流に設置した警報局のサイレン吹鳴や音声放送を行う設備です。加古川大堰下流の河川区域内にいる河川利用者に対して、加古川大堰の操作による水位上昇が予測される時に前もって河川区域からの避難を促すよう、サイレンや放送で知らせます。

明星電気は、これからも地域の皆さまの安全・安心に貢献していきます。

(担当: 関西支店、気象防災事業部)



POTEKA

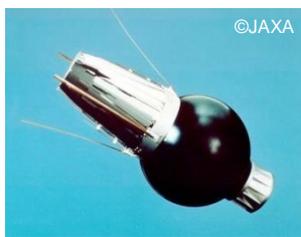
工事現場でPOTEKA活用

株式会社IHIインフラシステムの工事現場にて、高密度気象観測・情報提供サービス POTEKAが活用されています。POTEKAの電源・通信工事を必要としない設置性の良さや、スマートフォンで作業員全員が気象情報を確認できる点、設定基準を超える気象条件になった時、メールで通知される機能などが評価され、現在、複数の工事現場で利用されています。

工事現場では、風速、雨量が一定基準を超えた場合は作業を中止する必要があり、設置したPOTEKAによる気象データを使って、その場で判断できるため、即座に作業の中止・再開ができ、作業員の安全管理に寄与しています。

POTEKAがさまざまな場面で活用されるよう、事業を推進していきます。

(担当: 関西支店、気象防災事業部)



人工衛星「おおすみ」

宇宙科学・探査と「おおすみ」シンポジウムに参加

1970年2月11日、日本初の人工衛星「おおすみ」が打ち上げられ、今年でちょうど50周年を迎えるにあたり、国立科学博物館でシンポジウムが開催され、当社も参加しました。

明星電気は、「おおすみ」に搭載したアンテナや方向性結合器の開発を担当しました。当時開発に携わった先生から、人工衛星計画の提案から宇宙航空研究所設立など、日本の宇宙開発創成期に関する説明がありました。パネルディスカッションでは、これからの宇宙開発について、現在活動中の「はやぶさ2」での実績をもとに、ピンポイントタッチダウンや、自律化したマルチローバーから砂石などを採取して母船に持ち帰るなど、重力天体のサンプルリターンを実現していき、衛星は「より高度に、より高頻度に、より遠くへ」を目標に開発を進めていく構想についての議論がありました。

衛星探査機の搭載機器を開発している当社にとっても、宇宙開発の将来展望は大変参考になりました。

(担当: 宇宙防衛事業部)

Sensing & Communication

私たちは、独自の Sensing & Communication 技術により、革新的な商品・サービスを創造し、安全・安心な社会の発展に貢献していきます。